

学校法人瓜生山学園と学校法人東北芸術工科大学が法人統合に向けて協議することで合意

京都造形芸術大学(京都市左京区/学長:千住 博)を運営する学校法人瓜生山学園と東北芸術工科大学(山形市上桜田/学長:根岸 吉太郎)を運営する学校法人東北芸術工科大学は、2012年4月1日の法人統合に向けて協議を進めることで合意。学校法人東北芸術工科大学は6月13日の理事会で、学校法人瓜生山学園は6月14日の理事会で承認されました。今後両法人は、法人統合協議会を設置して統合に向けての協議に入ります。

京都造形芸術大学と東北芸術工科大学は、これまで20年間姉妹校として密接な連携を取りながら、『藝術立国』を共通の志に、2003年には韓国事務所を、2006年には東アジア芸術文化研究所を、そして2010年には東京に外苑キャンパスを共同で開設するなど共に歩んで参りました。今後、更なる連携を模索している場面にありましたが、東日本大震災という日本の国難が生じ、学生募集が好調である今、より盤石な体制で東北および日本の再生に寄与するべく、今回の統合を協議するにいたりました。

なお、今回の統合は、両校の学部学科や教員組織をこれまで通り維持しつつ、更なる連帯ができる体制を整えることをめざすもので、統合後の法人名称も、両校が提唱する理念『藝術立国』に由来する「学校法人藝術学舎」に改称した上で再スタートする予定です。

また、今回の法人統合が実現した場合、結果として在学生数10,871人(内通信教育生5,495人)、帰属収入112億8,479万円(平成21年3月31日現在)となり、芸術単科の学校法人としては、国内で1、2を争う規模となります。

統合の目的と経緯

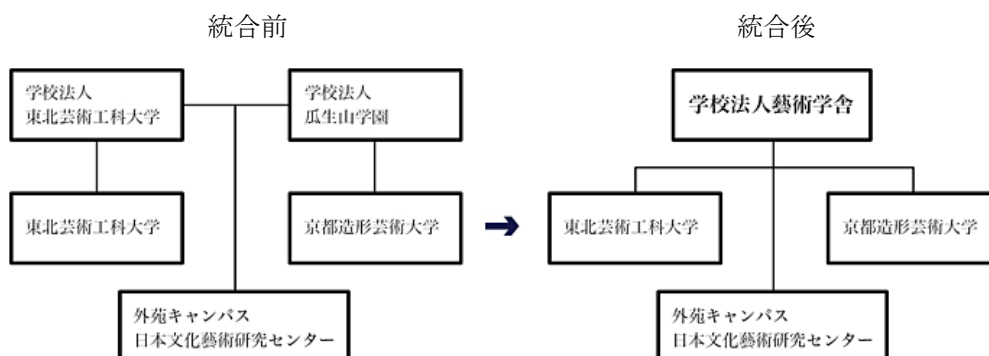
京都造形芸術大学と東北芸術工科大学は、これまで20年間、姉妹校として密接な連携をとりながら共に歩んで参りました。京都造形芸術大学は「京都文藝復興」を、東北芸術工科大学は「東北ルネサンス」を提唱。2007年には両学に共通するビジョンとして『藝術立国』を提唱し、連携を一層強固なものにするとともに、2010年7月には東京藝術学舎を開設し、現代日本の中心地である東京、弥生の京都、縄文の東北という三拠点一体となり、現代文明の功罪を問い続け、日本の再生と平和のための新たな挑戦を始めることを宣言しました。

そして2011年3月11日、人類史上経験したことが無いほどの大災害が、東北、日本を襲いました。

復興に向けて動き出す一方で、超少子化が予測される激動の日本の中で、両大学の良好な連携関係、学生募集、運営基盤があるいま、両大学を運営する学校法人瓜生山学園と学校法人東北芸術工科大学の両法人を統合することで、「藝術立国」を目指して、東北、日本の再生に寄与するため、一本の道を行っていきとしました。

法人一体後に誕生する「学校法人藝術学舎」は、芸術系の大学を運営する学校法人としては、国内で初めて1万人を超える在学生を擁することとなります。

組織体系図 ※京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、両大学の教育体制などに変更はありません。



細川護熙 学園長 メッセージ

この度、私が学園長を務める東北芸術工科大学と京都造形芸術大学の両校が法人統合に向けて動き出したことは、誠に時宜を得たものと喜んでおります。両校はこれまでも、「藝術による平和の希求と日本の再生に向けた運動」に取り組んできましたが、今回の法人統合が実現したならば、その運動は更に力を増し、様々な分野で、具体的な展開を図っていく可能性が拓けていくものと思います。

千住博 学長 メッセージ

このたびの京都造形芸術大学と東北芸術工科大学の経営母体である学校法人の統合は大変意義深いものです。弥生と縄文の地に立つ両校は「不滅の法灯」に導かれて強いきずなで結ばれました。二つの点と点が結ばれ一本の太い線となり、未来への方面性を明示するに至り、そして更に近代日本の刻印の地、明治神宮外苑に生まれた外苑キャンパスという今一つの点とともに、遂に三点は一平面を成し、ここに新しい地平が生まれたこととなります。それは新しい世界の創造を意味します。ではこの大地は、いかなる世界観を有するのか。

それは人間の良心の地平であります。そしてここが芸術立国を標榜して立つ私たちの発信基地です。私たちはここから全世界に向け、芸術的発想という平和創造の叡智を力の限り送り出し、この激動のがれきの中から満身でこの国と人々を復興させていかななくてはなりません。

今、学校法人藝術学舎はこの新たな地平のもと、人類の指針となるべく文化・文明創造のための知的、人的エネルギーのパワープラントにしていきたいと思っています。

【この件に関するお問い合わせ】

京都造形芸術大学 企画広報室 (TEL:075-791-9112)